

兵庫県立福崎／播磨福崎高等学校
図書だより



2026 年 1 月号

新着図書のお知らせ

『17歳のときに知りたかった受験のこと、
人生のこと。』

びーやま、高田ふーみん 著

……校長先生が寄贈してくださいました。



チャンネル登録者 60 万人の

超人気 YouTuber が書き下ろし！

勉強方法から大学選びまで、学校では教えて

くれない情報を徹底的に詰め込んだ唯一無二の書。

巻末には wakatte.TV が本気で教える「オススメしたい参考書」など
豪華特典が満載。令和の大学受験を生き抜く決定版。



図書室で暖かくして過ごしませんか？

3 学期・図書室開室予定表

本を読むもよし、勉強するもよし。

3 学期も図書室を利用してくださいね。

令和7年度 後期図書室開室予定表

昼休み(毎日)12:55~13:10、放課後(月・水・金)15:40~16:30

月曜日		火曜日(昼のみ)		水曜日		木曜日(昼のみ)		金曜日	
1/26	○	1/27	△	1/28	○	1/29	△	1/30	○
2/2	○	2/3	△	2/4	○	2/5	△	2/6	○
2/9	○	2/10	△			2/12	△		
3/2	△	3/3	△			3/4	△		

△は、原則、昼休みのみ開室ですが、
放課後は17:00まで自習室として使えます。

図書委員のオススメ本

図書室(学級図書としてクラスに持って行ったものを含みます)にある本を中心にオススメしてもらっています。図書室に探しに来てくださいね!

●『52 ヘルツのクジラたち』 町田そのこ

主人公の三島貴瑚が、過去の傷を抱えながら海辺に引っ越すところから始まります。この作品は大きく分けて貴瑚が虐待と摂食の中で生きてきた「過去」と新たな出会いを通じて再生を模索する「現在」の2パートで構成されています。引っ越し先で出会った言葉を発せない少年との生活を通じて、少年も自らも救済されていく愛と再生の物語です。

この作品はドラマ化されるほどの人気作品で、この作品を通して読者自身も過去をふり返って考えることのできる作品でオススメです。

●『はたらく細胞』 清水茜

生物のテスト問題の答えが分からなかった時に、この本を読んでいたら問題によっては思い出せるかも。読むだけおトクです。

●『はたらく細胞 BLACK』 初嘉屋一生、原田重光 清水茜

簡単に体の中の仕組みやいろいろなものの働きを知ることができて、勉強にもなります。

●『西の魔女が死んだ』 梨木香歩

中学に進んでもまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女・まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過ごした。西の魔女ことママのママ、つまり大好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受けるのだが、魔女修行の肝心かなめは、何でも自分で決める、ということだった。喜びも希望も、もちろん幸せも…。

穏やかな田舎の暮らしが丁寧に描かれていてあたたかい気持ちになる。おばあちゃんの言葉が深い。物語に出てくる日常が自分も健康になったような気分にくれる。

●『また、同じ夢を見ていた』 住野よる

学校に友達がいなかった「私」が出会ったのは手首に傷がある「南さん」、とても格好いい「アバズレさん」、一人暮らしの「おばあちゃん」、そして尻尾の短い「彼女」だった…。

主人公の「私」がこの出会った3人と一匹で「幸せとは」を考える少し切ない話です。この純粋な主人公は、成長した私達にはできない考え方を持っていて、価値観が変わること間違いなしです。

●『ツナグ』 辻村深月

死んだ人との再会を仲介する能力者「ツナグ」の役割を祖母から引き継いだ男子高校生。そんな彼の能力を頼ってさまざまな理由を抱えた依頼人が次々に現れる。しかし、彼らの願いを抱くようになる。

おすすめポイントは、登場人物たちが再会を通して過去と向き合い、新たな一歩を踏み出す姿が描かれているところです。

●『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティー

その孤島に引き寄せられたのは、互いに面識もない、職業や年齢も様々な十人の男女だった。だが、招待主の姿は島にはなく、やがて夕食の席上、彼らの過去の犯罪を暴き立てる謎の声がある…。

とある十人の男女が次々と消えてゆくサスペンスに満ちた物語であり、1人ずつ消えるたびに人物関係が微妙に変わっていく様子などがとてもわかりやすく、読んでいて退屈させることがない、巧みな構成になっているところがオススメです。

●『鏡の国のアリス』 ルイス・キャロル

暖炉の上の鏡の中を通り抜け「鏡の国」へ飛び降りたアリスが繰り広げる物語。

「鏡の国」でさまざまな不思議なできごとを体験しているアリスを見ていると自分まで楽しくなるし、次の展開が気になってくる本です。